

は歯の形態修正, 抜歯, 補綴治療等を考慮しながら永久歯列期での個性正常咬合の確立をしなければならぬと考えられる。

## 受賞講演 II

歯周病の検査を考える

○成石 浩司

岩手医科大学歯学部口腔機能保存学講座  
歯周・歯内治療学分野

この度, 平成 22 年度岩手医科大学歯学会優秀論文賞受賞という栄誉をいただき, 素直に嬉しく思いますとともに関係の先生方には心より感謝申し上げます。

受賞の対象となった論文のタイトルは「重度歯周病患者における歯周病原性細菌に対する血清 IgG 抗体価の変化: 症例報告」です。歯周病は口腔常在菌による慢性感染症であるにも関わらず, 臨床の現場では歯肉の発赤・腫脹の有無や歯周ポケット深さなどを指標にしたいわゆる“歯周組織検査”に基づいて診断されます。このような現況について, われわれ歯周病研究者は忸怩たる想いを抱きつつ, “歯周病細菌の感染度”を指標にした歯周病検査が一日も早く臨床応用されるように努力している次第です。本症例報告では, ある広汎型慢性歯周炎患者において, 歯周治療による炎症の改善に相応して歯周病細菌に対する血清 IgG 抗体価が健常レベルにまで下がった症例をまとめました。このような症例報告を積み重ねていくことが, 感染症である歯周病の検査として歯周病細菌に対する血清 IgG 抗体価検査が有用であることを臨床の場に広めていく最善の策であると考えています。

今回の受賞講演では, タイトルにもありますように, 本歯周病患者治療例を紹介しながら, 歯周病検査の現況から将来展望に至るまでの私見を述べさせていただきたいと思えます。また, 今回, このような形で私の歯周病治療に対するコンセプトの纏めを行う栄誉を得ることができましたが, あらためて解明されるべき研究課題が山積していることに気付かされた次第です。今後も, 本研究分野の発展を通じて, 岩手

医科大学歯学会の発展に貢献できるように弛まぬ努力を誓いたいと思えます。

最後に, この度の受賞につきまして, 私の大学人としての臨床・研究活動を支えて下さっているすべての先生方に対して, あらためて感謝申し上げます。

## 一般講演

演題 1. 当科における過去 6 年間の ICU 管理症例の検討

○大橋 綾子, 鍋島 謙一, 坂本 望,  
佐藤 健一, 佐藤 雅仁, 城 茂治

岩手医科大学歯学部口腔外科学講座  
歯科麻酔学分野

目的: 1989 年の開局以来, 当科は歯学部の手術における全身麻酔を担ってきた。その間, 口腔領域の悪性腫瘍切除後における再建手術は, 有茎皮弁から遊離皮弁に変化してきた。その結果, 他科との合同での手術が増加し, 遊離皮弁における血管吻合の保護及び血流維持のため, 術後静脈内鎮静法併用での ICU 管理が増加してきた。その理由の一端には, 2005 年に歯学部附属病院と医学部附属病院が統合され, ICU 利用が容易になったことも挙げられる。今回われわれは, 過去 6 年間に術後 ICU 管理となった 21 症例を調査し検討した。

方法: 過去 6 年間の ICU 管理となった 21 症例について, 麻酔台帳・当直日誌を調査した。

結果と考察: 術後 ICU 入室予定患者は 21 症例中 14 症例が遊離皮弁の再建術で, 3 症例が術後気道管理目的, 記載の無いものが 1 症例であった。また, 予定外入室は 3 症例あり, その内訳は術後気道閉塞をおこした症例, 術中から循環器系に問題があった症例, 術後出血のため再手術, 出血点が見つからず, 念のため気道管理目的で入室した症例であった。気道管理では気管切開が 17 症例であった。呼吸様式では 15 症例で人工呼吸器を使用していた。ICU における鎮静では 15 症例でプロポフォール, 全例でフェンタニルを使用していた。